

ワクチンについては、本当に私たちの常識を真っ向から裏切ります。

以前にもお話しましたが、私は自然療法を学ぶために大人になってから4年間学校へ行きました。

大学病院の先生が行う病理学・生理学・解剖学をはじめ、鍼灸師や東洋医学(と言われる中医学ですね)の授業の中で、話のネタでワクチンのことも当然出てきました。

当時のノートもまだとってあり、時々振り返ります。人生の中で一番勉強した時期です。

国立公衆衛生院の感染症室長を務めていた医学博士、母里啓子(もりひろこ)さんが、このように言っておられます。

「インフルエンザワクチンは効きません。ウイルスを学んだ者はそんな常識です！」と断言されています。

ウイルスは絶えず形を変える、特にインフルエンザは変異のスピードが速いのでワクチンが追いついていかない。

たとえていうなら、永遠に続く鬼ごっこのようなものだ。学会で「[前橋レポート](#)」により証明されています。

なのに、なぜ政府は効かないワクチンをすすめるのか。

そもそもワクチンとは何ぞや？ いつ、どこから生まれたのか…その歴史を知っておかなければなりません。

これも授業中に出てきました。

英国の医師「エドワード・ジェンナー」は、予防接種の父と呼ばれています。

このジェンナーは、18世紀天然痘がヨーロッパで大流行したときに、牛痘ウイルスにかかった人は、それ以降は天然痘にかからないということに気が付いた…と、歴史上では言われています。

ま、教科書とかにも書かれているわけですが…

実際はどうだったのか、という。

1759年、8歳の少年に牛痘にかかった農夫のおできの膿を接種した。

そして、その同じ少年に6週間後、今度は天然痘の接種をしたところ、少年は発病しなかった。

という記録が残されているわけです。

膿の中の何かが、少年の体内で天然痘を防いだ、という結果です。

ジェンナーは、たった一人の少年の人体実験によって、ワクチン神話を作り上げたのです。

英国議会が、ジェンナーに500万円出しています。(当時にしては大金ですよ)ここからワクチン神話が始まりました。

このことは、フランスのパスツールが細菌を発見する100年近くも前の話。

まだ 病原体の存在や免疫反応の存在も知られていない、そんな時代からです。

教科書などには、ジェンナーが天然痘をワクチンによって撲滅したと書かれています。

ですが、ジェンナーの仕掛けた罠が「天然痘撲滅」という嘘を生み、ワクチン信仰を確立させたといわれています。

1800年以降、天然痘の爆発的な流行となります。

1870年～1871年 ドイツ国内では100万人以上が天然痘にかかり、わずか1年で12万人が死亡しました。

そのうちの96%が天然痘のワクチン(種痘)を受けていたのです。

つまり、種痘は天然痘を防ぐどころか、爆発的な流行の原因になっていたのです。

ヨーロッパやアメリカでは、その後、種痘はなくなりましたが…日本にはまったく知らされず、明治政府に強制され

1872 年に「強制種痘制度」が導入されました。

その後、日本でも爆発的に流行し、多くの人が天然痘にかかり 3 万人近くも死亡しました。当然接種した人です。歴史を振り返ると、ペスト、スペイン風邪、コレラ、マラリア、ジフテリア、ポリオ、エイズ、サース、新型インフルエンザ…などなど爆発的な流行の病が一時的にはびこり、そのたびにワクチンが登場しています。

そして、のちに調べると、ワクチン接種している人の方が、感染死亡率が高いことが判明。実は逆だったんですね。たとえば、マックスでジフテリアでは 3000 倍、ミニマムはポリオで 7 倍というように…接種している人の方が断然死亡率が高かったのです。

そもそもワクチンは、「抗原抗体反応」という免疫システムを利用しています。これは、人間の自然の免疫システムで、外から異物が体内に侵入すると、体が抗体を作って抗原と結合して無害化するという仕組みです。

これを、ワクチンの場合は、毒性を弱めた抗原成分を接種し、あらかじめ抗体を作っておく。すると、病原体に感染したときに、抗体がすでにあるので発病しないという発想です。

でも、接種した病原体と流行する病原体が異なっていたら…せっかくの抗体もまったく無力。役に立ちません。先に述べましたが、ウイルスは絶えず形を変えるので、変異してしまえば抗体にならないということです。だから、感染症のプロの人が「ワクチンは効かない！」って断言しているわけですね。

つまり、ワクチンの経緯というのは、常に手探り状態だということです。

さて、今回の covid-19 のワクチンについては、そんな今までのワクチンとは作りがちょっと違います。mRNA ワクチンは、まだ誰もその結果を知りません。治験も終わっていない段階です。でも、これまで実験室で使われた動物たちは、すべて死んでいます。人間にはどうなのかしら？ mRNA ワクチンについて

<https://www.chem-station.com/chemglossary/biochem/2021/01/mrnavaccine.html>

未だ未開発のものを、まさに今、人体実験されているということを認識しておかなければなりません。

そして、ついでに、その原料は何からできているのか、どうやって作られるのかも知っておかなければなりません。

Dr. キャリー・マデイ: ワクチン製造方法

<https://twitter.com/i/status/1356226532671254548>

狂牛病をご存じですか？ その狂牛病の原因はわかっていますか？

牛が牛骨入りのえさを食べることによって起きています。つまり、「共食い」ってことなんです。共食い、牛だけではなく。人が人を食べる…アドレノクロムも同じですね。

そして、この新しいワクチンはアドレノクロムのように、人を犠牲にされて作られています。何が入っているのか正体のわからないようなものを、自分の体に入れてしまうのはとても危険です。安全である保障は全くされていません。

そして、今回の covid-19 ワクチンは生命保険の適応がされないのはご存じですか？

ワクチンを打っている人は、それが原因でなくとも亡くなった場合は生命保険はおりないらしいです。たぶん、保険屋が潰れるからでしょうね。そしてワクチンが原因だとわかって、薬のメーカーは訴訟されない約束になっています。

それなのに、ワクチンを信じているのは、なぜでしょう？

ワクチンで免疫にはならない！と感染症のプロが断言されているというのに…

皆さん勘違いされていますが、接種して免疫が強くなると信じているのは間違いです。

しかも、無料で受けられる…だなんて、タダほど怖いものはありません。

ピラミッド構造の上層の人たちの利権の問題だけです。

医者にはワクチン 1 本打って国から 17000 円もらえる仕組みです。

良心のある医者たちは、今、立ち上がり、声をあげて危険勧告をしています。

https://www.bloghitoshikawai.com/blog/12-world-doctors-alliance?fbclid=IwAR3qtRT68_sAgPZ9hQxoDy8DDcEK9TeaV_LG8oL3IHft_LRyBfcDa4pNm4

どこのメーカーのワクチンも、接種してから 5 年後には内臓が腐るといわれているようです。

接種後すぐにアナフラキシーショックや発熱、発疹の出る人は、実は体の反応がいい人です。

これは、体内の異物を一生懸命出そうとする力が働いている証拠です。（これこそが人間の持つ自然治癒力！）

インフルエンザなどのワクチンを毎年接種している人は、体内に異物が入ってもすでに体が鈍くなっているので、なかなかすぐには反応しません。

何も出ないから…と、それを健康な証拠と、取り間違えていらっしゃる方が多いです。

mRNA ワクチンは、ゆっくりと長い時間かけて、DNA が変化させられていくのです。

はっきり言います。ワクチンの正体は「生物兵器」です。

元ファイザーの副社長がこのように告発しているようです。

<https://www.jimakudaio.com/post-10858>

正体のないお化けのような存在のコロナを怖がって、本当に怖いワクチンを待望しているなんてどうかしています。

なぜに、生物兵器なのか…

それは、人口削減のためです。

ビルゲイツの特許がとってあるこのワクチン。これが、彼らの最終目的だからです。

ナノチップ入りも怖いですが mRNA ワクチンは未知の世界。

怖がるのは、コロナではなく、むしろワクチンであると私は思います。

メルマガ：【自分らしく生きる】大事な話② より抜粋